

Classic Nagoya
クラシック名古屋
〒460-0024
名古屋市中区正木西丁目8番7号れんが橋1F
TEL(052)678-5310 FAX(052)678-5330
http://clanago.com

プレイガイド
アイ・チケット
☎0570-00-5310

ナゴヤ劇場ジャーナル

◆発行/マネージメント・プロ ◆編集/プランニングオフィス白壁 ◆協賛/クラシック名古屋

MP MANAGEMENT PRO
①舞台・イベントの企画・制作・マネージメント
②芸術コンサルティング
③タレントのマネージメント
④ナゴヤ劇場ジャーナルの発行

株式会社マネージメント・プロ
〒464-0850 愛知県名古屋市中区千種区今池1-14-11 CASA LUZ302
TEL.052-735-3151 FAX.052-735-3152
E-mail: mpooffice@pa2.so-net.ne.jp

「セレナーデ」(和光写真・杉原一馬)



松本道子バレエ団「2017トリプル・ビル」

朝もやの森林で小鳥の声を楽しむかのように、目と耳を贅沢に酔わせてくれた。華麗で優美、繊細で流麗、粋で官能的な松本道子バレエ団の「2017トリプル・ビル」(3月10日・フォレストホール)である。

舞台批評

「アンコール公演」と銘打っているが、好評だった1年前の舞台の単なる再演ではない。4作品中2作品が新登場なら、出演ダンサーも大幅に入れ

華麗で優美、繊細で流麗―甘美な舞台に陶醉

名古屋で国際音楽祭NIPPON



Akiko Suwanai © 吉田民人

幼年期、豊明でバイオリンを始めた諏訪内晶子

芸術監督・諏訪内晶子

世界的バイオリニスト諏訪内晶子が芸術監督を務める「国際音楽祭NIPPON」が、5月と7月に東京・名古屋・久慈(岩手県)で開催される。今年が5回目になる。

一般的な音楽ホール公演だけでなく、美術館、病院などでの演奏、諏訪内が講師を務める「マスタークラス」の実施など、多面的な展開でクラシック音楽の魅力をアピール



名古屋地区のイベントは次の通り。

「世界的チェリストと巡る江戸時代と西洋の音楽」5月27日(午後5時) 徳川美術館講堂。出演はマリオ・プルネロ(チェロ)、鈴木大介(ギター)。

幼年期を豊明で過ごした諏訪内

諏訪内晶子と名古屋には、深いつながりがある。出生地は東京都だが、彼女は生後間もなく愛知県豊明市に移転し、小学1年まで同地で過ごしている。特筆すべきは、「3歳で、バイオリンを始めたのが名古屋だったこと」。

5月10日と13日 世界中で熱い賛美を浴びるベルギーのダンススカ

ベルギー屈指の舞踊団ローザス 名古屋で代表作と最新作を上演



「Fase」© Herman Sorgeloos

ローザスの代表作「ファーズ」

ンパニー「ローザス」が10年ぶりに来日。5月10日(午後7時)名古屋市中

エルムに初登場した増生美伽子



シャンソンの扉

97増生 美伽子

2016年アマチュアシャンソンコンクール全大会グランプリ歌手、増生美伽子の登場であ

兵庫県宝塚市生まれ。演劇の世界から、昨年コンクールに初挑戦した異色のシンガー。「歌は3分間のドラマ」を、鮮やかに実証した名優である。

「グランプリを受賞して、これでまた新しい扉が開くと予感しました。受賞後開催した記念リサ

全国大会グランプリで「歌は3分間のドラマ」鮮やかに実証した名優

イタリアは大好評で、新たなファンを獲得。こうして『エルム』で歌う機会にも恵まれました」

受賞曲となった「アコーディオン弾き」を聴いた。一語一句に主張があり、役者ならではの立ち居振る舞いがドラマを際立てる。裏声が強いのは、役者稼業の賜物である。

「公演の折にはスタッフと一曲一曲のドラマを構築する。そして私は役を生きて。至福の時間で、ジャストマッチし、歌い手にとっても、リスナーにとっても、濃密な時間が流れるのである。

る芸術の対比と調和に期待が膨らむ。

入場料金(全指定席)は「ファーズ」が5500円、25歳以下2500円。

Victor D. Ken Katayama José Antonio Moreno
名古屋公演
2017. 4. 21(金)
OPEN 18:00 START 18:30
名古屋芸術創造センター
鳴りやまない拍手とブラボーの嵐... スペイン公演の感動と興奮が名古屋に上陸。今、最高に熱い歌声が魂を挑発する!!

ご予約・お問合せ ● café concert ELM / カフェ・コンセル・エルム
TEL 052-733-0085 mail / mail@chanson-japonaise.com

審査員はすべて
海外の有名バレエ芸術家！

第27回全国バレエコンクール in Nagoya

日程: 2017年8月23日(水)・24日(木)・25日(金)
26日(土)・27日(日)

会場: 名古屋市芸術創造センター

【女子部門】

ジュニアA (小学生)
ジュニアB (中学生)
ジュニアC (高校生)
シニア (年齢不問)

【男子部門】

ジュニアA (小学生～中学2年生)
ジュニアB (中学3年生～高校3年生)
シニア (年齢不問)

審査委員長

ユーリー・ヴァシュチェンコ
(モスクワ国立ボリショイ劇場 プリンシパル)

審査員

タチアナ・タヤキナ
リュドミラ・セメニヤカ
ワディム・ソロマハ
セルゲイ・ウサノフ

*外国人審査員は事情により変更する場合もあります。



お申し込みは
4月1日(土)
からとなります。



名誉総裁
ユーリー・グリゴロビッチ

上位入賞者の特典!! 希望者はボリショイ、キエフ、ペルミ、ウファほかの名門バレエ学校への推薦を致します。

CJB 中部日本バレエ団

〒453-0018

名古屋市市中村区佐古前町16-41

申込書はホームページからダウンロードいただくか、バレエ団までFAXにてお申込みください。

TEL 052-481-5017

FAX 052-481-4388

<http://www.zenkokuballetcon.com>

音楽の印象は、指揮者や奏者の素敵な人間性

セントラル愛知



ピアノ 山本貴志、指揮 L・スワロフスキー

にも左右される。セントラル愛知交響楽団の第153回定演(3月10日・しらかわホール)を聴いて実感した。前半はラフマニノフの「ピアノ協奏曲第2番」を弾いた山本貴志。2008年にワルシャワ(ポーランド)のショパン音楽アカデミーを卒業し、同地を拠点に国際的な活動を展開する新鋭だ。

協奏曲にカンタータ、贅沢な一夜



フルート 上野星矢、指揮 川瀬賢太郎

名フィル定演

小気味よい川瀬賢太郎の指揮、フルート奏者・上野星矢のコンチェルト、そしてグリーン・エ

コー、福原寿美枝(メゾ)を交えてのカンタータ。2月の名フィル定演は、聴きどころ満載の、ぜひ欠かさない内容だった。上野が演奏したのはハ

チャトゥリアンの「フルート協奏曲」(ジャン・ピエール・ランバル編曲)。大編成のオーケストラをバックにした演奏も秀逸だったが、アンコールの「家路」(ドボルザーク独奏)にはじびれた。カンタータはプロコフィエフの「アレクサンドル・ネフスキー」。映画のために書き下ろした作品だけに情景描写が巧みで、曲想も変化に富んだ。何物をも包み込むような福原の歌声に身をゆだね、オーケストラと合唱の饗宴に酔いしれた。2月24、25日・芸術劇場コンサートホール。

ソリスト、指揮者の人間性に感動

在の団員は高校生から77歳までの31人。これまで「区民まつり」「音楽祭」「大曽根」などに客演しているが独自のコンサ

トリオ・クロリ
3人の音楽的個性が交わって、宝石箱を開いたような、きらびやかなサ

合奏で三者の持ち味輝いた



トリオ・クロリ(5/Rホール) ウンドが立ち上がった。「Tri o Color is トリオ・クロリ」の演奏会(3月3日・5/Rホール)だ。



こんな光景に出くわしたのは名古屋音楽大学大学院の終了演奏会(3月12日・しらかわホール)。演奏者は國領さおり。曲はタイ出身の新進作曲

演奏技術に息をのむ。合奏することで、ソロでは生まれ得ない三者の魅力が輝いた。複雑な点も散見されたが、実に魅力的で有望なトリオである。(シゲル)

いた。最後の「Bright Et oiles」(同・高宮直秀)は多彩なバリエーションで、ダンサー個々の魅力を引き出した。上々の出来を見せた生徒もいれば、明らかなミ

スもあった。しかし、ここで際立った生徒が、将来プリマとして活躍する保証は何もない。今回失敗を繰り返した生徒も、失望せずに稽古に励んでほしい。それは振付家も同様だ。

には自信があふれた。課題は音程と音質。それはジャズもクラシックも同様だ。エンディングにはプロ奏者(客演)とのセッションが展開され、メンバーが堂々と渡り合った。PSJO設立は北文化小劇場の快挙である。他区の小劇場にも大きな刺激になるだろう。

にそれぞれのソロ、デュエットも披露されたが、庄巻はメンデルスゾーンの「第一番」だった。緩急を際立たせたピアノとストリングスの併走。情熱的な旋律、高度な

演奏技術に息をのむ。合奏することで、ソロでは生まれ得ない三者の魅力が輝いた。複雑な点も散見されたが、実に魅力的で有望なトリオである。(シゲル)

びつくり二人二重奏、協奏曲

名音大大学院

まず、写真を見てほしい。2本のサクソフォン(ソプラノ、アルト)を同時にくわえ、一人で二重奏を行っている。ウケ狙いのパフォーマンズではない。れっきとした協奏曲の一部なのである。

この日は9人の修了生が、6年間の勉強成果を披露した。演奏技術は横一線だったが、アーティストとしての主張を感じたのは、ソプラノの相星利香と國領だ。プロとしてやって行くために、欠かせないのが、この「主張」であると思ふ。

家で、2004年度の武満徹作曲賞を受賞したナローン・フランチャリーの「ソプラノ、アルトサクソフォンとオーケストラのための協奏曲」。

管楽器の経験者であれば、この「二人二重奏」がいかに無茶な発想であるかが分かるはずだが、あえてそれに挑戦した作曲家と國領のチャレンジ精神を評価したい。

この日は9人の修了生が、6年間の勉強成果を披露した。演奏技術は横一線だったが、アーティストとしての主張を感じたのは、ソプラノの相星利香と國領だ。プロとしてやって行くために、欠かせないのが、この「主張」であると思ふ。

特にジャズファンというわけではないが、とても楽しいコンサートだった。北文化小劇場が運営するザ・ポラスター・ジャズ・オーケストラ(P S J O)の「ファースト・コンサート」だ。同劇場の呼び掛けで2015年に結成された市民バンド。現

トは初。「演奏経験のあること」がPSJO入団の条件になっているので、総じてレベルは高い。上級者が全体をサポートできるのもメンバーの多いビッグバンドの利点だ。プログラムは「イン・ザ・ムード」「A列車で行

こう」などスタンダードが中心。曲ごとにフィードバックされるソロ演奏になるだろう。

エンディングにはプロ奏者(客演)とのセッションが展開され、メンバーが堂々と渡り合った。PSJO設立は北文化小劇場の快挙である。他区の小劇場にも大きな刺激になるだろう。

にそれぞれのソロ、デュエットも披露されたが、庄巻はメンデルスゾーンの「第一番」だった。緩急を際立たせたピアノとストリングスの併走。情熱的な旋律、高度な

演奏技術に息をのむ。合奏することで、ソロでは生まれ得ない三者の魅力が輝いた。複雑な点も散見されたが、実に魅力的で有望なトリオである。(シゲル)



小池 真琴

ンブルコンサート」を開く。会主・小池真琴ら主力メンバーによるM A K O d a N A M O と、キッズグループP i P i が「カルメン幻想曲」展覧会の絵ほか大正琴の認識を一新させる演奏を展開。アカペラグループ、コ



プロ奏者とのセッションも堂々

バレー団の枠を超え参加した12〜21歳の46(男子6)人が、5カ月30回のレッスンを経て臨ん

プロ奏者とのセッションも堂々



PSJO「ファースト・コンサート」の「ファースト・コンサート」だ。同劇場の呼び掛けで2015年に結成された市民バンド。現

トは初。「演奏経験のあること」がPSJO入団の条件になっているので、総じてレベルは高い。上級者が全体をサポートできるのもメンバーの多いビッグバンドの利点だ。プログラムは「イン・ザ・ムード」「A列車で行

こう」などスタンダードが中心。曲ごとにフィードバックされるソロ演奏になるだろう。

エンディングにはプロ奏者(客演)とのセッションが展開され、メンバーが堂々と渡り合った。PSJO設立は北文化小劇場の快挙である。他区の小劇場にも大きな刺激になるだろう。

にそれぞれのソロ、デュエットも披露されたが、庄巻はメンデルスゾーンの「第一番」だった。緩急を際立たせたピアノとストリングスの併走。情熱的な旋律、高度な

演奏技術に息をのむ。合奏することで、ソロでは生まれ得ない三者の魅力が輝いた。複雑な点も散見されたが、実に魅力的で有望なトリオである。(シゲル)

現代大正琴小池流ア ンサンブルコンサート

5月7日 アートピアH
キッズグループも出演

ルピコロ(客演)との共演も。全自由席2000(当日2500)円、小中学生1000円。TEL 0567(95)93698。

舞台批評 SHOW CASE

だ晴れ舞台である。幕開けの「Opening」(振付・松岡璃映)は、バーを使ったレッスン風景を作品に昇華させた秀作。続く「The Light」(同・松村一葉)はコンテンポラ

リー作品で、松村の振付家としてのセンスが光った。後半の「The Co medians」(同・幸田律)では喜劇仕立てのバレエを披露したが、芸術性に乏しく趣向を欠

いた。最後の「Bright Et oiles」(同・高宮直秀)は多彩なバリエーションで、ダンサー個々の魅力を引き出した。上々の出来を見せた生徒もいれば、明らかなミ

スもあった。しかし、ここで際立った生徒が、将来プリマとして活躍する保証は何もない。今回失敗を繰り返した生徒も、失望せずに稽古に励んでほしい。それは振付家も同様だ。

には自信があふれた。課題は音程と音質。それはジャズもクラシックも同様だ。エンディングにはプロ奏者(客演)とのセッションが展開され、メンバーが堂々と渡り合った。PSJO設立は北文化小劇場の快挙である。他区の小劇場にも大きな刺激になるだろう。

にそれぞれのソロ、デュエットも披露されたが、庄巻はメンデルスゾーンの「第一番」だった。緩急を際立たせたピアノとストリングスの併走。情熱的な旋律、高度な

演奏技術に息をのむ。合奏することで、ソロでは生まれ得ない三者の魅力が輝いた。複雑な点も散見されたが、実に魅力的で有望なトリオである。(シゲル)

想像と創造の?!オペレッタ

「白馬亭にて」

名古屋文化振興事業
団企画公演のオペレッタ
「白馬亭にて」(2月17・
20日・アートピアホール)



市事業団企画公演「白馬亭にて」(撮影・中川幸作)

を見た。

実はこの作品、日本で
上演実績がきわめて少
なく、楽譜や台本、映像
など、上演のための資料
がほとんど入手できな
かったとい
う。

そこで音

楽監督の井
村誠貴と、
台本・演出
の池山奈都
子は「想像
と創造」で
資料の穴を
埋め、名古
屋版「白馬
亭にて」を
書き上げた
(らしい)。

果たして
上演された
作品は、オ
ペラ研究室長」の壮
大な演出だった。

壮大な作品の意図を映像交じえ

名古屋大「魔笛」

名古屋芸術大学のオペ
ラ公演「魔笛」が、西文
化小劇場との共催で行わ
れた2月24・26日。「学
部学生」「教員・卒業生」
「院生・学部生選抜」の
3通りの公演で、私が見
たのは教員・卒業生によ
るもの。

善と悪、生と死、光と
影。すべての人間は対
立する2面性を有し、宇
宙もまた同様である。対
立はやがて解消され、大

全体にせりふが多く、歌
曲も日本語に適した旋律
が多用された。ベルカン
トで歌うオペラ歌手が精
彩を欠いたのも納得だ。
しかし100年以上前
の作品を再生させた意義
は深い。今回の公演を新
作の初演と解釈し、再演
に期待したい。

(上野)

演劇補助席

吉開菜央
「ほったまるびよ
り」part2

ダンサーで映像作家の
吉開菜央によるパフォー
マンス「ほったまるびよ
り」part2を見た。
舞台はひなびた廃屋。「こ
なりのトトロ」の「まっ
くろくろすけ」ながら
4人の肌着姿の童女たち
がゴングと屋内を駆け
回る。

4人は体をくねらせ、
次第に激しく躍動する。
肉塊をペロリと飲みほ
し、エロスともつれ合い
ながら母子相姦を匂わせ
て子宮回帰にふける。

最初、彼女らはスク
リーンの中にいたが、映
像内の水槽から水泡を抜
かれ人魚に変身。舞台上

童女たちが描出した桃源郷の眺め



(写真提供: MAT, Nagoya / 撮影: 羽鳥直志)



「いかものぐるい」(千種文化小劇場)

「ほったまるびよ

水を張ったプールでピチ
ピチ跳ねた。これはスク
リーンを子宮に例え、画
像化された羊水がこの世
に流れ出る光景だ。

彼女たちは、匂いたつ
熱き柔肌に、摘み取った
ばかりのクガイ(菊科の
多年草)を蒸留したアプ
サンを磨り込み、悦楽で
恍惚となって沐浴する。

ジェルニカの歪んだ顔が慟哭した

オレンヂスタ

「いかものぐるい」

オレンヂスタの「いか
ものぐるい」を見た。作
演出の二ノキノコスター
は、若き日の野獣派パプ

それはまさに桃源郷の眺
めだった。(清水義和)

税関港寮。

3月3・5日・旧名古屋

ロ・ピカソを彷彿(ほう

ふつ)させる前衛アー

ティストだ。

序幕、コソブレのモケ

子と落語家の慈蔵が現

代と江戸時代を混在さ

せ、不吉な流星を闇夜

に落とす。
街はリニアモーター
カーの誘致運動で騒然。
モケ子の母ヨウコは運動
推進者のタマリとの不倫
が発覚して家族に棄てら
れる。

舞台評

名古屋二期会
「天国と地獄」

名古屋芸術大学オペラ「魔笛」

脇が、年合を感じさせぬ
このオペラは語っている
のである。
ソリストでは演出の澤

脇が、年合を感じさせぬ
このオペラは語っている
のである。
ソリストでは演出の澤

脇が、年合を感じさせぬ
このオペラは語っている
のである。
ソリストでは演出の澤

間奏曲

演者、演奏家の励みになれば…

2012年1月
の38号からで、そ
れから他人事では
すまされなくなっ
た。

音楽を専門的に
学んだわけではな
いが、長年の記者
生活や、足を運ん
だコンサート、パレ
エタンスなど数千
回の公演を通して
感じたことを率直
につづっている。

(上原宏)

私たちは「ナゴヤ劇場ジャーナル」を応援します

青山 皆江 越智久美子 手塚 淑子
秋田巳喜子 小野由加利 戸田美江子
阿久津紀子 加藤 静子 中川 幸作
浅井 孝子 金澤 志保 仲条 優理
荒川 洋子 かえあきり 夏目 久子
出田 光代 蟹江 尾八 名鶴ひとみ
伊藤 敬 神谷久美子 西川 長秀
稲垣 舞比 小池 真琴 野々山保治
井上 初子 工藤寿々弥 野村 祐子
斎 千龍 榎原菜生 服部 節子
内田寿千代 佐藤 典子 服部はる江
内田 寿典 佐藤美智子 林 雅仁
内田 寿晴 澤脇 達晴 淵本晴都子
内田 寿哉 島田 倫子 松下 奈央
内田 寿起 白樺 八青 松本 道子
内田 寿起 瑞鳳 澄依 見波 紀子
内田 寿起 鈴木久美子 みやちともこ
内田 寿起 鈴木 文雄 宮西 圭子
大島 明子 角田真優美 山口 雅子
大寺 資二 高橋 肇 よしみゆこ
岡田 一男 武市 孝三 渡部 千枝
岡田 純奈 竹元まき子 ほか
岡崎 保彦 玉田 弘子
小倉ひろこ つつみあつき

会員募集

「ナゴヤ劇場ジャーナ
ル」では発行をご支援い
ただけるサポート会員を
募集しています。会費は
年間6480円(税込
み)。会員には小紙を毎月
お届けするほか、紙面に
お名前を掲載(希望者の

乱世に舞うひとひらの愛——光秀よ、何故に本能寺を攻めた

Menicon presents

西川右近 戦国オラ

2017年

5月13日(土) 18:00開演 (17:30開場)

5月14日(日) 14:00開演 (13:30開場)

名古屋能楽堂

料金 S席:6,000円 A席:4,000円

【出演】 田村亮(語り・南光坊天海)、吉田知明(明智光秀)、加藤恵利子(歸蝶)
田中良和(織田信長)、滝沢博(斎藤道三)、能勢健司(足利義昭) ほか

作品HP <http://event.menicon-ba.co.jp/>

※ホームページからもチケット予約が可能です。

■特別協賛 株式会社メニコン
■後援 名古屋教育委員会、公益財団法人名古屋文化振興事業団
■主催 日本新作ミュージカル制作委員会

「声楽家のドタバタ喜劇」の是非



名古屋二期会オペラ「天国と地獄」

すべてが日本語で、分
かりやすく、とても面白
かった。「天国と地獄」
というのはこういう物語
だったのかと初めて分
かった。

タカ(以下・タカ)
オペラやオペレッタは

タカ それは程度問
題。観客全員に喜んで
もらう必要はないと思
う。役者ならともかく、歌
を勉強している二期会のメ
ンバーが、ドタバタ喜劇
を演じる必要はない。

タカ ス
タッフワ
ークにつ
いては同
感。三代
舞踊団の
フレンチ
・カンカ
ンも素敵
だった。それ
ぞれが専
門分野で
本領を発
揮したか
らでは？

このナゴヤ劇場ジャ
ーナルが先月100号に
達した。当初これほど
続くとは、第三者として
思ってもいなかった。
一読者だった私が新聞
社を退社したさい、何か
書いてくれないかと依頼
された。書きたいことを
書き受けたのがコラム
「間奏曲」。

あふれ出る曲想、難曲にも安定感

リノ弦楽四重奏団

愛知県立芸大の卒業生によるLINO（リノ）弦楽四重奏団の第1回演奏会（2月25日・5/R



田菜々子、チェロ加藤志麻の女性4人。見るからにフレッシュでその印象通りの演奏だった。モーツァルト「ディベール・クヴァルテット・K136」は軽快なテンポで、同弦楽四重奏曲第2番・K589では、対照的に晩年のモーツァルトらしく、しっとり聴かせた。

新鮮だった昭和の歌謡ポップス

ボーカル加藤恵利子

ホールは、若さあふれる演奏が満喫できた。バイオリン清水綾、金沢紫（ゆかり）、ピアノ福

オペレッタやミュージカルで実績のある加藤恵利子のリサイタル（3月8、9日・HITOMIホール）初日を聴いた。リサイタルは10年ぶりという。前半は「オペラ座の怪人」「回転木馬」や、昨年主演した「ザ・ミュー

ジックマン」などのナンバーで、これは当然と言えるプログラム。のびのびとした艶のある声で文句なしの歌いぶり。予想外だったのは後半の「飛んでイスタンブール」「異邦人」など、われわれの年代には懐かしい日本のポップス。リアルタイムでは聴いてない

は、その彼女だが。この意外性が新鮮に響



いた。私が好きな小坂明子の「あなた」は特に良かった。尾崎亜美の「オリビアを聴きながら」などバラードもじっくり聴かせた。何を歌ってもソツがない。司会もするそうで、話術も心得て楽しい。器用なボーカリストとして期待できるが、初心のクラシックの勉強も忘れな

くのか注目したい。まずは順調なスタートを切ったと言えるが、勝負はこれから。サクソフォンという、珍しい楽器でどんな活動をしていくのか注目したい。

豊かな音色、特殊な奏法に驚き

サクソフォン機員充希

（みき）のリサイタル（2月24日・電気文化会館）は、この楽器に対する認



識を新たにする収穫があった。4年間のフランス留学から帰って初のリサイタルで、フランスの近現代作品中心のプログラム。スローで哀愁を帯びたものから速いテンポで展開する作品までバラエティーに富み、少しも飽きさせない。弘中佑子のピアノ、サクソフォンの竹下眞理子とのかけ合いも楽しめた。クラシックの楽器としてはあまり聴く機会がないサクソフォン。これほど豊かな音色や特殊な奏法があることに驚いた。彼女の鮮やかなテクニクがこの楽器の存在感を示した。フランスでしっかり学んできた成果だろう。

13th アリエッタ・フレスカ
ARIETTA FRESCA
ピアノコンサート

2017年5月6日(土) 13:30開演
サントリーホール
全席指定 ¥2,500

川合 亜実
ピアノリサイタル
The New Concert of the Heart

2017年5月12日(土) 19:00開演
サントリーホール
全席指定 ¥2,500

丹羽 悦子 ピアノリサイタル
～ 晩秋の音楽 ～

2017年5月27日(土) 19:00開演
サントリーホール
全席指定 ¥2,500

Canon Presents
ウィーン少年合唱団
少年合唱団

日本中を感動に包む、心を癒す天使の歌声!

WIENER SÄNGERKNABEN
プログラム B
ウィーン少年合唱団とつなぐ「世界の旅」
管野よう子：花は咲く タケカウキヒデ：ビューティフルネーム
黒人童歌：アメイジング・グレイス J.シュトラウスⅡ：美しく青きドナウ ほか

2017.5/14(日) 愛知県芸術劇場コンサートホール
17:00開演 (16:30開場)
S ¥7,000 A ¥5,500 B ¥4,000 C ¥2,000 (全席指定・税込)
主催：テレビ愛知 協力：クラシック名古屋

プレイガイド
アイ・チケット 0570-00-5310 cianago.com/ticket
チケットぴあ 0570-02-9999 (コード: 319-866) ローソンチケット 0570-084-004 (コード: 43232)
芸文プレイガイド 052-972-0460 栄プレチケ92 052-953-0777 e+ (イープラス) eplus.com

ご予約お問合せ テレビ愛知事業部 052-243-8600 クラシック名古屋 052-678-5310

今年より、5歳から入場できるようになりました。

特別協賛：キャンノマーケティングジャパン株式会社

オーケストラのための音楽
ズーラシアン
フィルハーモニー管弦楽団
Zoorasian Philharmonic Orchestra

2017年5月28日(日) 14:30開演
愛知県芸術劇場コンサートホール
全席指定 ¥4,500 / A席 ¥3,500 / B席 ¥2,500

【プログラム】
森のくまさんチャイコに出会った。
赤とんぼ
ポップコーンラグ
闘牛士のマンボ
幻想曲がこめ

5歳以上の方はチケットが必要ですが、(大人1人と5歳未満の子ども1人)で入場可。

プレイガイド
アイ・チケット 0570-00-5310 cianago.com/ticket
チケットぴあ 0570-02-9999 (コード: 319-866) ローソンチケット 0570-084-004 (コード: 43232)
芸文プレイガイド 052-972-0460 栄プレチケ92 052-953-0777 e+ (イープラス) eplus.com

ジョン・健・ヌッツォ リサイタルツアー2017
BEETHOVEN X SCHUBERT
ベートーヴェン x シューベルト

ジョン・健・ヌッツォ (テノール) 河原忠之 (ピアノ)

2017年6月7日(木) 19時開演 (18時30分開場)
電気文化会館 ザ・コンサートホール
全席指定 ¥6,000 (税込)

プレイガイド
アイ・チケット 0570-00-5310 cianago.com/ticket
チケットぴあ 0570-02-9999 (コード: 319-866) ローソンチケット 0570-084-004 (コード: 43232)
芸文プレイガイド 052-972-0460 栄プレチケ92 052-953-0777 e+ (イープラス) eplus.com

ダン・タイ・ソン
ピアノ・リサイタル
Dang Thai Son Piano Recital

2017年6月18日(日) 14:00開演 (13:15開場)
三井住友海上しらかわホール
全席指定 ¥10,000 / A席 ¥8,000 / B席 ¥6,000 / C席 ¥2,000

プログラム
ショパン
夜曲集 Op. 10
マズルカ Op. 64
ワルツ Op. 34
スケルツォ Op. 39

プレイガイド
アイ・チケット 0570-00-5310 cianago.com/ticket
チケットぴあ 0570-02-9999 (コード: 319-866) ローソンチケット 0570-084-004 (コード: 43232)
芸文プレイガイド 052-972-0460 栄プレチケ92 052-953-0777 e+ (イープラス) eplus.com

奏でる人を聴きたい人へ 人と音を結ぶ
クラシック名古屋
052-678-5310
名古屋市中区正木4-8-7 れんが橋ビル1F



クラシックコンサートのチケットは
アイ・チケット 0570-00-5310
(10:00~17:00 ※日祝休み)
アイ・チケット web 検索
※好きな時間にお好きな席を選んでクリック!!
カード決済・コンビニでのお支払いができます。

クラシック名古屋のプレイガイド
「アイ・チケット」
多くのクラシックコンサートのチケット
販売から、ホール、座席のこまごまオペレータ
ーが、丁寧に対応いたします。
ホームページからもチケット購入ができる、
便利なクラシック専門のプレイガイドです。